

みなさんからの支援物資届けました！

5月19日、集まった募金で購入した布団セット80セットを被災地気仙沼へ

その御礼の手紙が届いています。＜裏面に全文を掲載＞ 私たちがしてきたことについての意味と、感謝の言葉が綴られています。実行委員一同は感動しました。みなさんも是非読んで欲しいと思います。また、布団を受け取った方からは「被災してから初めて布団でゆっくり休めました。」「家族分を頂き、感謝しています。」などの声が届いています。

5月26日、文具・衣類・洗剤・タオル・おもちゃ・絵本・テッシュ・鉛・衛生用品など 石巻と気仙沼へ

2回目の支援物資を昨日、K. Kカシックス様のご厚意で被災地へ運んでいただきました。社長さんと運転手さんから、「みなさんの気持ちの品物を責任をもってお届けさせていただきます」とのお言葉をいただきました。また、夏用のフード付き部屋着上下600着と、半袖ポロシャツ50着をELEPHANT様からご提供いただき一緒に送りました。

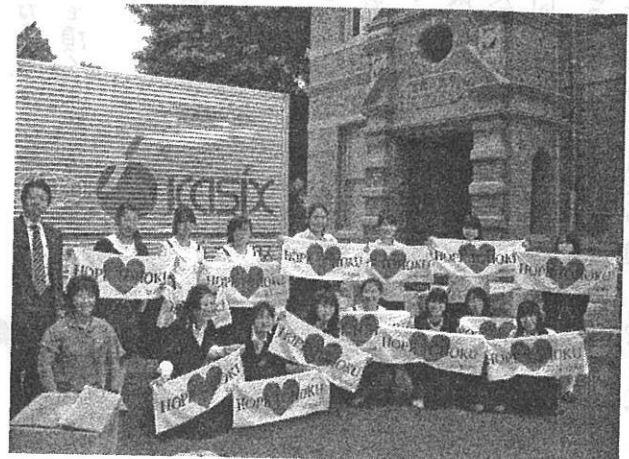
保護者や卒業生や、卒業生の保護者の方々からの新たな募金で、 更に追加の布団を仙台へ

4月30日の応援イベントの事を知った方々から、その後「私もお布団の代金の不足分を協力したい」との申し出があり、多くの募金が届けられ、新たに布団セットを購入しました。本当に有り難うございました。

福島の高校生にも届けます

明日、明後日の2日間にわたり、京都会館で京都合唱祭が行われます。被災地福島から、高校生200人が参加されます。みなさんが書いたメッセージ入りのノート200冊を届けます。女子高校生には、みんなが提供した髪飾りや髪留めをプレゼントします。

＜昨日支援物資をカシックス様のトラックに積み込んでいく作業の様子＞



気仙沼に住んでいる先輩からのお手紙

私たちは吉村さんに気仙沼を案内してもらいました。そして、吉村さんを通じて支援物資を気仙沼に送りました。

平安女学院の生徒のみな様へ

初めまして。松本吉村と申します。

平安女学院高等学校を卒業したのはいつ頃だったかという。気持ちはあの頃のままなんです。(笑) たぶん、

お家で、気仙沼市に主人と息子達4人で暮らしています。

今井先生から4月のある日「あさって気仙沼へ行くから。」

と電話を頂きました。今まで、私結婚式も来会ってあらず、

常に忙しいイメージが強い先生からの意外な電話でした。

の先生が働く方には、よほど生徒のみなさんの東北を思う、

気持ちがたまたまあつたからだろうと、直ぐに察しました。

ありがとうございます。

私も子育て中なので、我が子が小学生の後半ぐらいまでには、

別に……とか「却下」とか「無理」とか寂しい

言葉を使つたにはなはなと思つていました。これも

時代なのかあると思つていました。冷めた若人というのは、

私の誤解だと気がつくことができました。「今、東北の人達の

ために何かしたい」と思つた人が一人、また一人いて、

お互いが求め合つて集まり始めて、実行委員会ができた

ので。もちろん、生徒が動けば、先生がサポートして

くれます。少人数の生徒と先生の小さな輪が次第に

大きくなつていく様子が「轍」というのを見ていくとわかり

ました。「東北の人達のために」と思つてくれて、本当に

ありがとう。何度でもありがとうでございます。あなた方

の小さな一つの思いが友達と動き、先生と動き、

保護者の方々と動き、くれたこと、私は知りました。

私は3月11日、仙台にて被災し、市役所に避難しました。

余震と恐れ、ストーブも焚くにはもうえませんでした。寒から

気仙沼にいる家族が心配でした。ひたひた気仙沼へ帰れる

んだらうかと不安でした。食事事も冷めた、固くは

ご飯がカレーと水でした。まだ頂けただけ

幸せだったので、地震をはじめ天災は「瞬」に

快適な生活を変えてしまいました。ある人は「天罰だ。」

と言いました。確かにそうかもしれませんが、賛否は暮らし

していた人間に神様が怒つたのでしょうかね。

今、一日百良くなっています。でもまだ、元の

生活にはもどっていません。気仙沼の街は、海岸沿いを中心に

瓦礫と臭い、いづいづです。復興には最低でも2年は

かかるでしょう。息の長い支援をお願いできればと思います。

でも月日と共に忘れられていくでしょう。忘れなれといけない

とも思っています。

5月19日(木)の朝、たくさんの中居が届きました。気仙沼

の人達が喜んで取りに来て、嬉しそうに帰っていく人達を

私は見ました。ありがとうございます。ありがとうございます。

みなさん、ありがとうございました。DVDを見ました。こんな事を、企画

運営してくれて、ありがとうございます。お蔭で、皆さんの物が、

に集まりました。集めて頂いた物やお金は気仙沼の

人の助けになりました。救うことができました。ありがとうございます。

でございます。

先生、お忙しい中、遠路はるばる、道の悪く、気仙沼

まで、お越し下さり、ありがとうございます。そして、良き

聞いた事よく生徒のみなさんに、話して下さいました。

お蔭で、皆さんの支援を頂くことができました。あり

かとうございます。

生徒のみなさん、そして先生方、多くの協力と理解を

下さった方々に、私の感謝を伝えて頂ければ幸いです。

気仙沼のパラレルと同封します。美しい時の

気仙沼です。

私の田舎は、平成五年生まれ、次男は、平成七年生まれです。

私は阪神大震災の時は、尼崎市にて、被災しております。

その時は、長男は1才で、次男は、お腹の中にいました。

平成七年一月に阪神大震災が起きました。

その時の赤ちゃんと、子供は今、高校二年生、三年生にな

っていますね。みなさんと同じですね。阪神のときは、ほめた

ばかりの赤ちゃんが、今回の震災後の支援には、おくれました。

ありがとうございます。大きく成長してくれた事、願っています。

平成二十三年 五月二十日

吉村